

鹿屋市国際交流指針

Kanoya City International Exchange Guidelines



平成 31 年 3 月

目 次

1 策定の趣旨等	1～2
(1) 背 景	
(2) 目 的	
(3) 国際交流指針の推進期間	
2 国際交流のこれまでの取組	3～4
(1) 鹿屋市の取組	
(2) 民間の取組	
3 これまでの取組の課題	5
(1) 外国人の相談体制	
(2) 多言語での情報提供	
(3) 国際交流の人材確保	
(4) 活動団体と行政の連携	
(5) 鹿屋市民族館の活用	
(6) 外国人観光客への対応	
4 国際交流推進の目標及び取組の方向性	6～11
(1) 多文化共生社会の構築	
(2) 国際化社会で活躍できる人材の育成	
(3) 民間団体等のネットワークの構築	
(4) 本市の特性を生かした国際交流の推進	
(5) 外国人観光客の誘致	
(6) ホストタウンの推進	
指針イメージ図	12

1 策定の趣旨等

(1) 背景

情報通信技術の発展により世界中の情報が瞬時に得られる現代、経済・産業・教育等においてグローバル化が進む中、国際性豊かな人材育成、スポーツ・文化・経済交流など多彩で幅広い国際交流の展開が求められています。

鹿屋市においては、1990年の鹿児島県総合基本計画の戦略プロジェクト個別プランに盛り込まれていたアジア・太平洋農村研修村構想に基づき、県が1994年に高隈の大隅湖畔に国際交流拠点として、「鹿児島県アジア・太平洋農村研修センター（通称：カピックセンター）」を整備し、アジア・太平洋諸国をはじめとする各国からの研修生と市内の小中学生との交流が行われてきました。



▲ 多くの外国人が研修するカピックセンター

また、全国唯一の国立体育系単科大学「国立大学法人鹿屋体育大学」及び市内のスポーツ施設を生かしたスポーツ合宿を通しての交流や、民間団体等の外国及び本市での草の根活動による交流が継続しています。

2018年3月末の本市の在留外国人数は、新市が誕生した2006年3月末と比較すると177人増加し、499人となっています。増加した要因は、本市の基幹産業である農業や水産業等の第一次産業の分野で高い技術を学び、その身に付けた技術を母国で生かす外国人技能実習生が増加したことによります。



▲ タイ王国ナショナル女子バレーボール協会との事前キャンプの覚書調印式

さらに、2019年4月からは、改正出入国管理・難民認定法の施行により、技能実習生以外の外国人労働者の増加が見込まれています。

また、近年では、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に地域活性化を目指す国の「ホストタウン構想」において、本市は、2017年12月にスロベニア共和国、さらに2018年4月にはタイ王国のホストタウンとして登録されました。

この登録を本市発展の好機とし、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会以降も、相手国との交流に取り組みます。

(2) 目的

これらの背景を踏まえ、市民・民間団体・行政が連携し、それぞれの役割を互いに支え合いながら、多文化共生社会の実現と、スポーツ・文化・観光・地域経済などの分野で活性化が図られるよう、本市の国際交流推進に向けた基本的な考え方を示す「鹿屋市国際交流指針」を策定するものです。

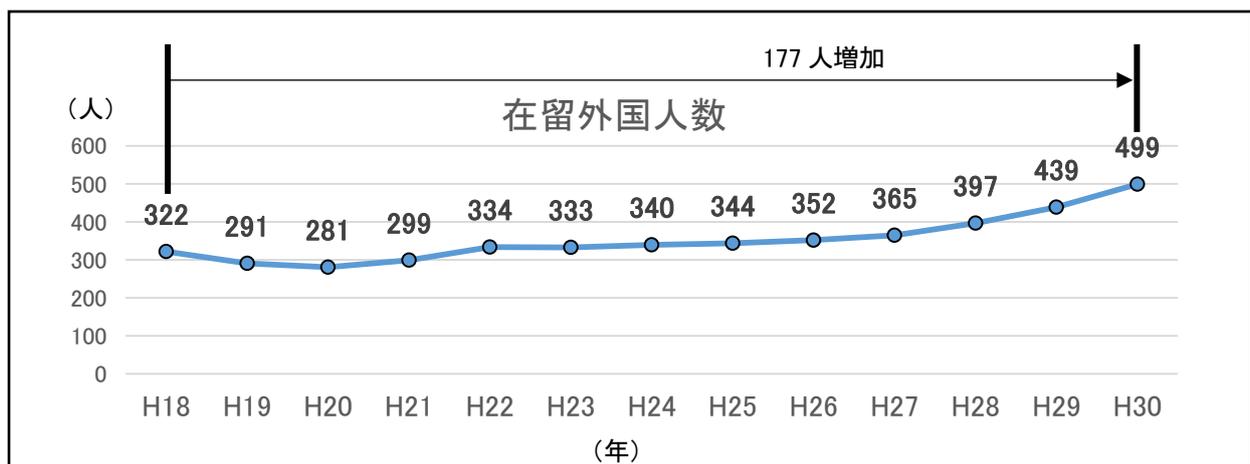
(3) 国際交流指針の推進期間

本指針の推進期間は、平成31年度（2019）から平成35年度（2023）までとします。
なお、様々な情勢の変化により見直しが必要な場合は、修正を行うこととします。

【参考】

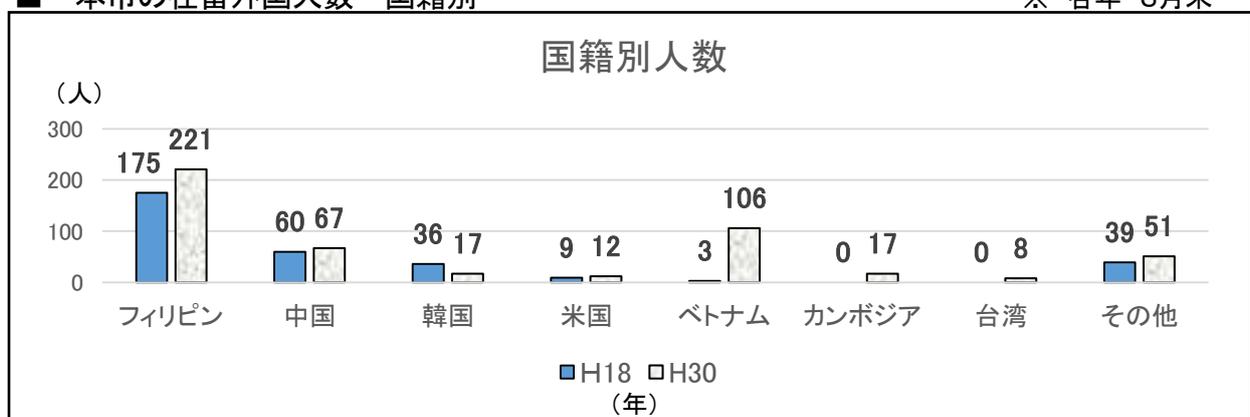
■ 本市の在留外国人数

※ 各年 3月末



■ 本市の在留外国人数 国籍別

※ 各年 3月末



▲ 12年前は、3人であったベトナム人が、106人まで増加しています。

2 国際交流のこれまでの取組

(1) 鹿屋市の取組

本市は1980年代、マレーシアのペナン州とドラゴンボートを通じて相互交流を続け、1987年には友好親善のシンボルの証として、霧島ヶ丘公園内に「ペナンガーデン」を、ペナン州に「かのやガーデン」をそれぞれ設置しました。

1997年には、アジア・太平洋農村研修村構想により、アジアの文化を紹介する展示品に実際に触れたり、民族楽器を弾いたり、民族衣装を身にまとうことができる、従来の博物館とは異なった「アジア・太平洋農村研修村民族館（通称：鹿屋市民族館）」を整備しました。

1993年には旧串良町において、串良小学校・上小原小学校・細山田小学校の3つの小学校が韓国全州（チョンジュ）市の北一（ブクイル）初等学校と友好盟約を締結し、相互交流事業が行われてきました。その縁で完州（ワンジュ）郡完州中学校とのサッカーによるスポーツ交流に広がり、これらの日韓青少年友好親善交流事業を通して、青少年の健全育成を図ってきました。



▲ 外観がアジアを感じさせる作りになっている鹿屋市民族館



▲ 全国唯一の国立体育系単科大学である国立大学法人鹿屋体育大学

また、本市は鹿屋体育大学と連携し、スポーツ合宿の受入れを国内外問わず、積極的に取り組んでいます。特に、同大学の身体活動を計測できるスポーツパフォーマンス研究センターを外国からの団体の利用しています。

その合宿支援として、本市の韓国交流員や国際交流員も母国語を生かした通訳や市民等との交流を繋ぐ役目を担ってきました。

国際化社会に対応できる人材育成のために、1987年から語学指導等を行う外国語指導助手（ALT）を、1996年からは、本市の国際交流活動に取り組む英語圏の国際交流員（CIR）を招致し、市民の英語に触れられる機会づくりに努めています。

2005年からは国の構造改革特別区域（特区）の認定を受け、「かのや英語大好き特区事業」として先進的に小学校英語教育を行ってきたほか、2015年からは、文部科学省の「英語教育強化地域拠点事業」を、2016年からは「外部専門機関と連携した英語力向上事業」を活用し、英語教育の研修・推進を行っています。

(2) 民間の取組

1982年に高隈地区や串良地区を中心に始まった「からいも交流」では、“汗と土と潮のふれあい”をテーマに、全国の在日留学生を県内の市町村の一般家庭に招き、寝食を共にしながら、都会では味わうことのできない貴重な体験ができるユニークな国際交流事業を行ってきました。



▲ 全国から注目を集めたからいも交流

1996年には、市民による外国との草の根交流を推進するため「鹿屋市国際交流協会」が設立され、異文化や日本文化体験を通じた国際交流をはじめ、青少年の海外派遣事業の支援など、国際化社会で活躍できる人材育成を目的とした活動が行われています。



▲ 外国人と触れ合える国際交流イベント

1997年からは、「アジア・ジャパン文化交流協会」や「いっしょき学校を作いもんそ会」が、ラオスとカンボジアでの学校支援として、校舎の整備や、カンボジアの教員を鹿屋に招致したことがきっかけで交流が始まり、現在もカンボジアの学校で開催される日本式の運動会の支援を続けています。

「串良町柳谷町内会（通称：やねだん）」では、韓国大邱(テグ)市の企業との交流を2009年から行っております。

鹿屋青年会議所においては、台湾の「台湾龍潭(リュウタン)国際青年商會」と1987年に姉妹青年会議所を締結し、30年以上に渡り互いの地域を訪問するなど、親睦・交流を深めています。



▲ 姉妹青年会議所を記念して、平成25年にばら園に品種「おおすみ」を植樹

1993年には、日韓青少年友好親善交流事業を機に、串良町住民を中心として「串良全北会(クシラチョンポクカイ)」が設立され、県と1989年に「友好協力の推進に関する共同宣言」に調印した韓国の「全羅北道(ゼンラホクドウ)鹿児島クラブ」と交流を続けています。

近年は、少子高齢化などに伴う働き手の人材不足から多くの外国人技能実習生が在留し、畑作や畜産、製造作業などに従事しながら技術を学ぶとともに、農産物等の生産を支えています。

3 これまでの取組の課題

(1) 外国人の相談体制

本市に移り住んだ多くの外国人は、日常生活で困ったことを相談できる場所が分からなかったため、不安や心配事を抱えながら生活を送るとともに、会話はできても、読み書きが苦手な人もいたことから、行政や学校などからの文書等の内容が分からず不便を感じています。

(2) 多言語での情報提供

本市に在留する外国人の国籍が増える中、多言語での情報提供が十分ではありませんでした。特に、近年は、台風や地震などの自国であまり経験しない規模の大きい自然災害を心配する在留外国人や外国人観光客に対応するため、地域住民と同様に避難ができる取組が求められています。

(3) 国際交流の人材確保

本市の国際交流活動の主体として期待されている鹿屋市国際交流協会は、様々なイベント等を通して、在留外国人と市民が交流できる場を設けるなど、地域の国際化の推進に貢献していますが、人口減少などにより、同協会の活動の協力者及びその活動を支える会員数が近年減少しており、人材の確保が心配されています。

(4) 活動団体と行政の連携

これまで民間団体等が東南アジア等において、学校建設などの国際協力活動を続けていますが、行政との連携が十分でなかったことから民間団体等の草の根活動が市民に浸透していない現状があります。

(5) 鹿屋市民族館の活用

異文化体験ができ、市民の国際感覚を醸成し、本市の国際交流拠点として位置付けられている鹿屋市民族館は、開館から20年以上経過し、来館者の誘客や今後の鹿屋市民族館の活用などについての検討が求められています。

(6) 外国人観光客への対応

年々増加している鹿児島県の外国人観光客に対して、外国語での観光案内看板の設置や観光パンフレットの作成などを行ってきましたが、県内の他地区に比べて外国人の宿泊者数が少なく、改めて外国人の視点で、外国人に喜ばれる本市の観光資源についての検討が求められています。

4 国際交流推進の目標及び取組の方向性

将来像

「国際交流を通じた多文化共生社会の実現と地域経済の活性化」

(1) 多文化共生社会の構築

本市の外国人の人口は増加する一方、少子高齢化や人口流出によりコミュニティ機能の維持が困難な地域も多くなっています。

このような中、地域コミュニティの新たな一員として、本市に在住している外国人への期待が高まっていることから、在留外国人が地域の構成員として活躍・貢献できる地域社会を構築するため、国籍や民族、文化の違いに関係なく、互いに相手を尊重し合う多文化共生社会の構築を推進します。

また、ごみ出しなどの日常生活のルールや災害時の避難情報を分かりやすく、迅速に得られる仕組み作りに取り組みます。

さらに、法律の改正により多くの技能実習生以外の外国人労働者も一市民として生活することから、地域住民や民間団体等と連携し、外国人を孤立させない、よりきめ細やかな対応ができる相談体制を整え、地域住民と共に安全に安心して暮らせる地域社会の実現を目指します。



▲ 会話だけではなく、読み書きも学ぶ



▲ 外国人の皆さんが日ごろ日本について思っていることを発表する「外国人による日本語弁論大会」

(2) 国際化社会で活躍できる人材の育成

情報化社会により多くの子どもが外国を身近に感じ、興味・関心が持てる今日において、これからの国際化社会で活躍できる人材を育てるには、実際に外国人や海外経験のある元青年海外協力隊などと交流することが大事です。

そして、外国へチャレンジする気持ちを育み、視野の広い、何事にも柔軟に対応できる力を養う必要があります。

そのために、国際交流員による異文化理解講座や鹿屋体育大学などと連携したホームステイ、国際理解教育などを体験できるカピックセンターの事業紹介など、本市で生活しながら、常時、外国に触れられる環境づくりに取り組みます。

また、本市の国際交流の裾野を広げるため、市民が気軽に学べる語学講座等を開催し、様々な国際交流イベントに協力する機運を醸成します。



▲ 国際交流員による異文化理解講座



▲ ホームステイを通して交流を深める

【世界のあいさつ】

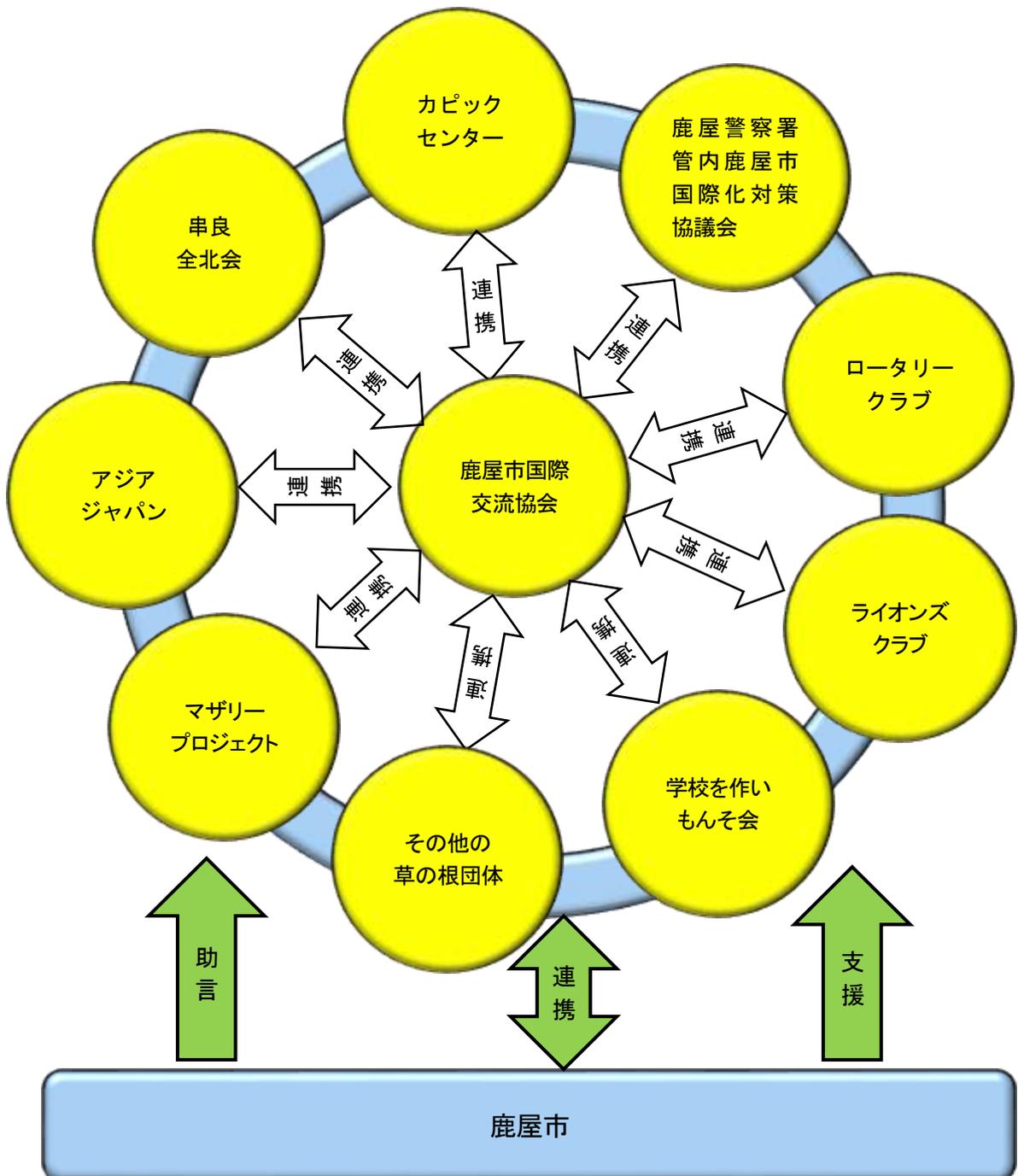
- | | |
|----------|-------------------------------|
| ◎ 日本語 | こんにちは |
| ◎ スロベニア語 | ドベル ダン |
| ◎ タイ語 | サワディーカップ (男性)
サワディーカー (女性) |
| ◎ 英語 | ハロー |
| ◎ 韓国語 | アンニョンハセヨ |
| ◎ 中国語 | ニーハオ |
| ◎ ベトナム語 | シン・チャオ |
| ◎ フィリピン語 | マガンダン ハポン
(フィリピン) |
| ◎ カンボジア語 | スースデイ |
| ◎ ネパール語 | ナマステ |
| ◎ ミャンマー語 | ミンガラバー |

※ 外務省ホームページを参考

(3) 民間団体等のネットワークの構築

地域における国際交流の担い手である鹿屋市国際交流協会が、カピックセンターや鹿屋警察署管内鹿屋市国際化対策協議会、ロータリークラブ、ライオンズクラブをはじめ、草の根交流団体である串良全北会やアジア・ジャパン文化交流協会、いっしょき学校を作りもんそ会、マザリープロジェクトなどとネットワークの構築を目指します。

各団体は、それぞれの国際交流活動が持続できるよう互いに協力し合うとともに、行政は各団体の自立性を尊重した「市民主体」の国際交流の支援・助言を行います。



(4) 本市の特性を生かした国際交流の推進



▲ 多くのトップアスリートが利用する鹿屋体育大学スポーツパフォーマンス研究センター

本市には、スポーツ合宿の核となる鹿屋体育大学や大隅青少年自然の家、アジア・アフリカ・ヨーロッパ・南北アメリカなどの世界各国から外国人が研修で訪れるカピックセンターがあります。

これらの優れた本市の特性を生かし、幅広い国々との国際交流活動を行うため、市民や民間団体と連携を図ります。

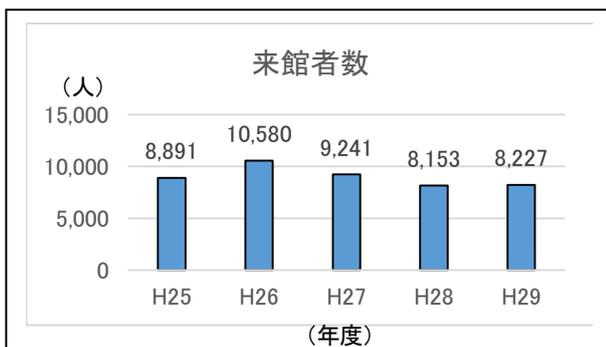
さらに、本市に在住している外国人を将来の貴重な地域経済活性化のパートナーとして、技能実習生の受入企業などと連携・協力して帰国後も繋がりが持てる良好な関係作りを目指します。

また、体験を通して市民の異文化理解に貢献している鹿屋市民族館の来館者増加に取り組みます。

【韓国からのスポーツキャンプ等の実績 ※本市把握分】

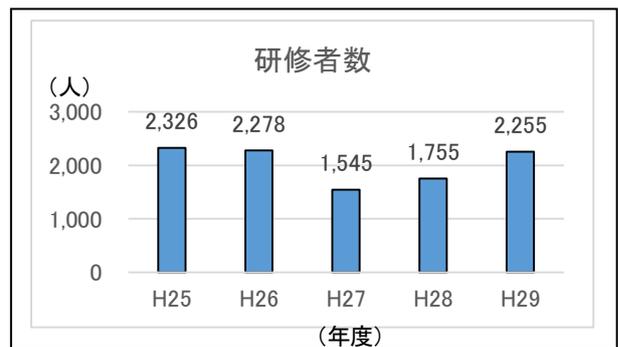
年 度	団体数 (団体)	人数 (人)	宿泊数 (泊)	延べ人数 (人)
H27	8	258	134	4,951
H28	4	105	45	1,298
H29	4	118	59	1,631

【鹿屋市民族館 来館者数】



▲ 近年は、ほぼ横ばい状態である

【カピックセンター外国人研修者数】



▲ 世界各国から多くの研修生が訪れている

【鹿屋市民族館 展示物】



▲ アジア等の民族楽器や衣装、玩具を展示

項 目	展示数 (点)
楽 器	約 40
衣 装	約 60
玩 具	約 40
計	約 140

(5) 外国人観光客の誘致



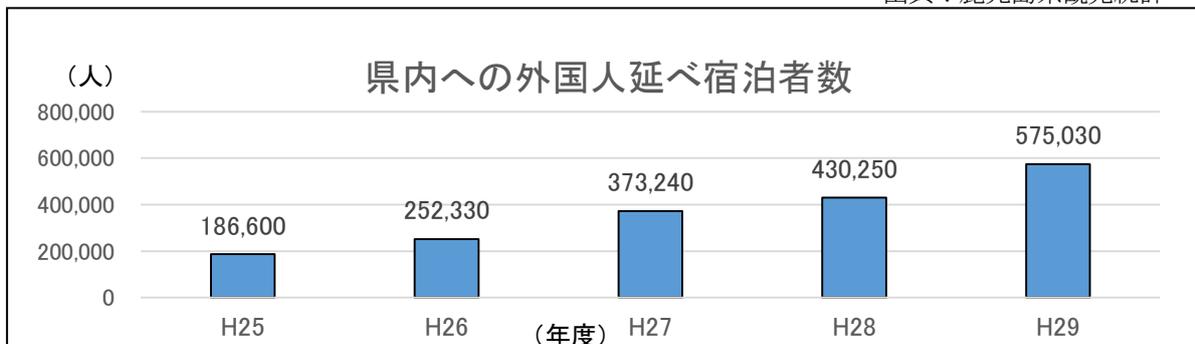
▲ 近年は、参加・体験型が人気

外国からの格安航空会社（LCC）の増便や豪華客船の寄港により、香港や台湾などから鹿児島県への外国人観光客は増加しています。

その観光客を本市及び大隅半島へ呼び込むプランを提供するため、株式会社おおすみ観光未来会議、一般社団法人鹿屋市観光協会と連携するとともに、市民・民間団体と協力して観光客誘致に取り組みます。

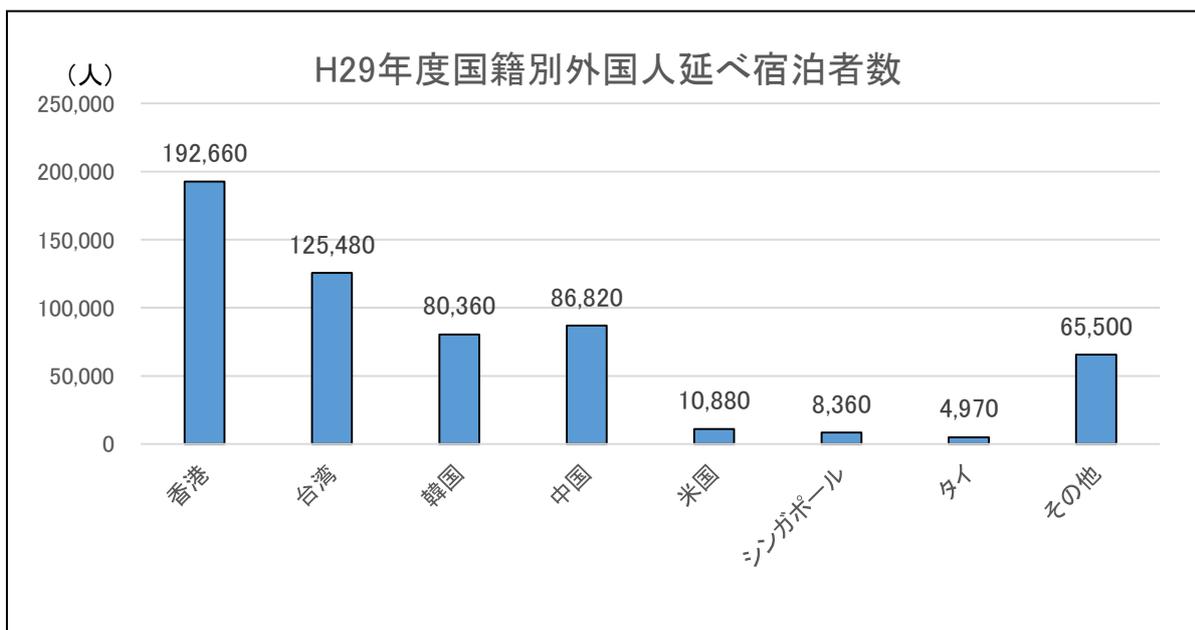
また、ホストタウンを契機に、世界各国からの観光客に対応できる環境整備を目指します。

出典：鹿児島県観光統計



▲ 格安航空会社（LCC）の増便が増加の要因 ※従業員数10人以上の施設が対象

出典：鹿児島県観光統計



▲ 鹿児島空港への直行便がある国・地域からの観光客が多い。 ※従業員数10人以上の施設が対象

(6) ホストタウンの推進

世界最大のスポーツの祭典であるオリンピック・パラリンピック競技大会の日本での開催を本市の国際交流を推進する機会と捉え、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会以降もホストタウンの相手国とスポーツ、文化、観光、地域経済など、様々な分野で交流を行い、本市の発展を目指します。

また、ホストタウンの相手国との関係をより一層深めるため、市民等への周知・啓発を行いながら、交流に対する機運の醸成を図ります。

さらに、大会開催によって本市の地域社会に有形・無形の持続可能な効果が生まれる「オリンピックレガシー」の創出に向け、市民や民間団体、そして次世代を担う中高生や青少年も参加する躍動感のある交流に取り組みます。



▲ タイ王国ナショナル女子バレーボールチーム



▲ 高校生もホストタウン交流で活躍

【ホストタウン 登録】

◎ スロベニア共和国 平成 29 年 12 月 10 日（第 5 次）登録



国旗の赤・青・白の3色は、スラブ人を表しており、自由と革命の理想を象徴。左上部に描かれているものは国章で、白い山は国内最高峰の南アルプスのトリグラビ山を、波型はアドリア海や河川を表しています。

国章の輪郭や3つの星は、中世に栄えツェリエ家の紋章に由来しています。

◎ タイ王国 平成 30 年 4 月 27 日（第 7 次）登録



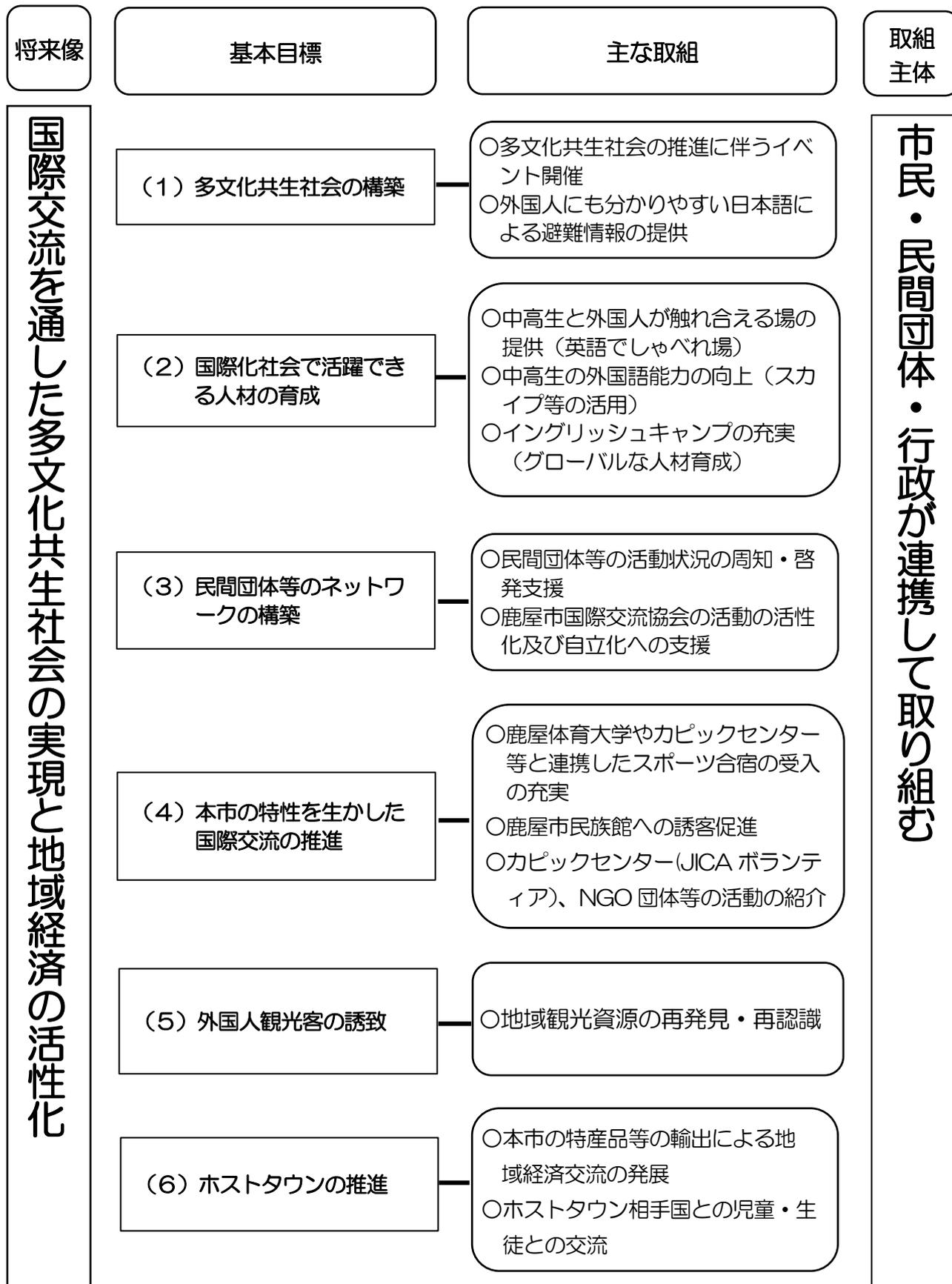
国旗は、赤・白・紺の横じまですされ、三色旗と呼ばれ、1971年に制定されました。

赤色は「国家・国民」、白色は「宗教（仏教）」、紺色は「国王」を表しています。

※ 「オリンピックレガシー」

オリンピック・パラリンピック競技大会には、大会開催に伴って社会に生みだされる持続可能な効果を「オリンピックレガシー」と呼ばれている。

【指針イメージ図】



鹿屋市国際交流指針

平成 31 年 3 月 発行

発行 鹿児島県鹿屋市

編集 鹿屋市役所 市長公室 地域活力推進課

〒893-8501 鹿児島県鹿屋市共栄町 20 番 1 号

電 話 0994-43-2111

F A X 0994-42-2001

ホームページ <http://www.e-kanoya.net>

メール chiiki@e-kanoya.net